

まちづくり環境委員会  
令和5年8月15日

環境清掃部 資料7番

所管 環境計画課

# 2020年度 大田区の温室効果ガス排出量報告について

オール東京62市区町村共同事業「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」の算定結果から

# 1 算定過程・算定方法

## (1) 算定過程 (2020年度値)

算定過程		2021年度	2022年度	2023年度
統計データの公表	「二酸化炭素」の算定	← 随時公表 →		
	「メタン」「一酸化二窒素」 「代替フロン類」「六ふっ化硫黄」 「三ふっ化窒素」の算定		← 随時公表 →	
公表値を用いて算定				← 算定 →

- ・ 算定は国、東京都、その他関係機関が公表する統計資料を引用。
- ・ 現在、算定可能な最新値は2020年度となる。

## (2) 算定方法

温室効果  
ガス排出量

=

エネルギー消費量

×

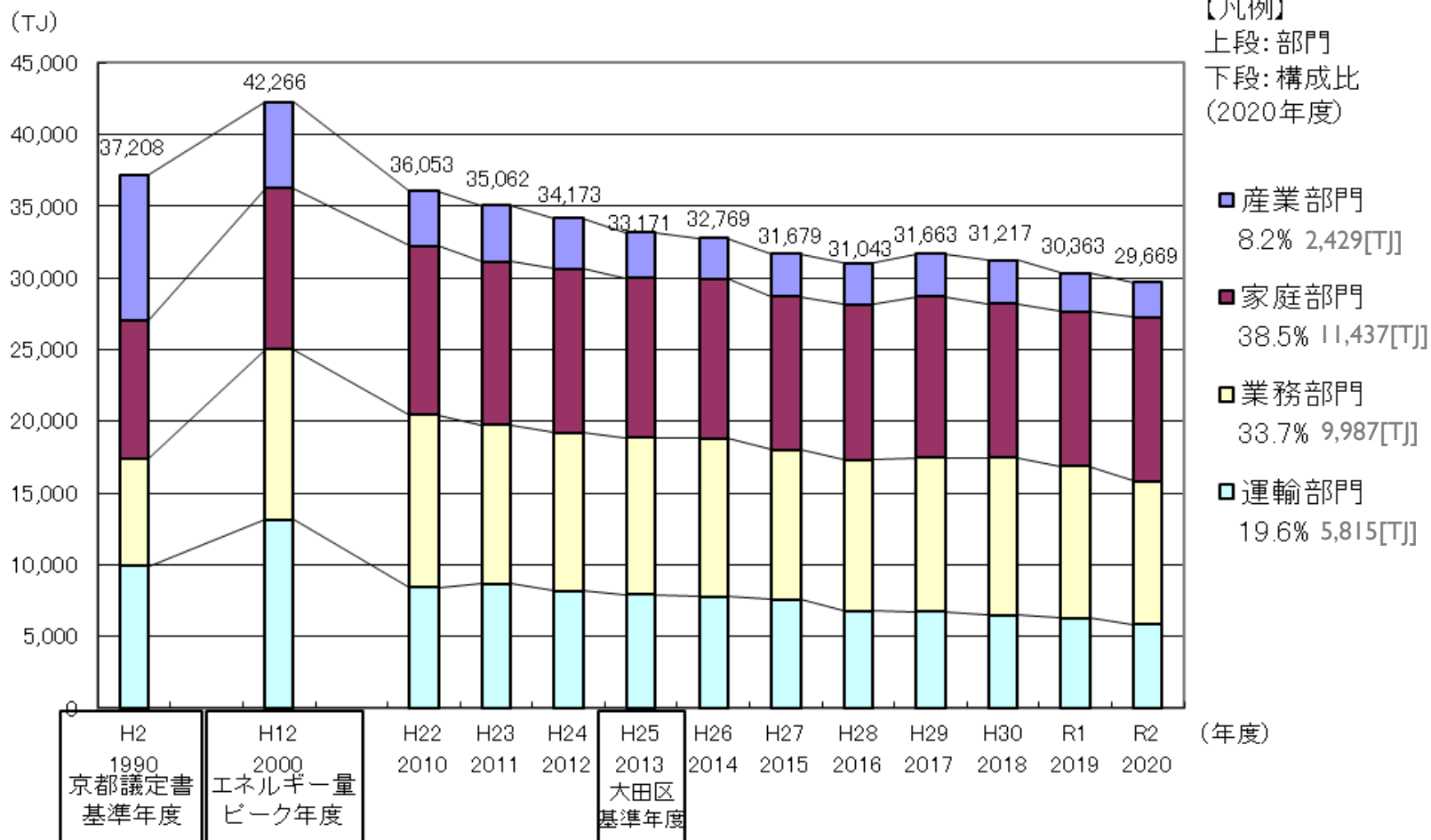
エネルギー源別排出係数

電気、都市ガス、ガソリン、  
灯油、軽油等

◆ 代表的な係数(2020年度)  
電気：0.434 [kg-CO<sub>2</sub>/kWh]  
都市ガス：2.210 [kg-CO<sub>2</sub>/m<sup>3</sup>]  
ガソリン：2.252 [kg-CO<sub>2</sub>/L]

再エネ設備は排出ゼロ

## 2 大田区のエネルギー消費量

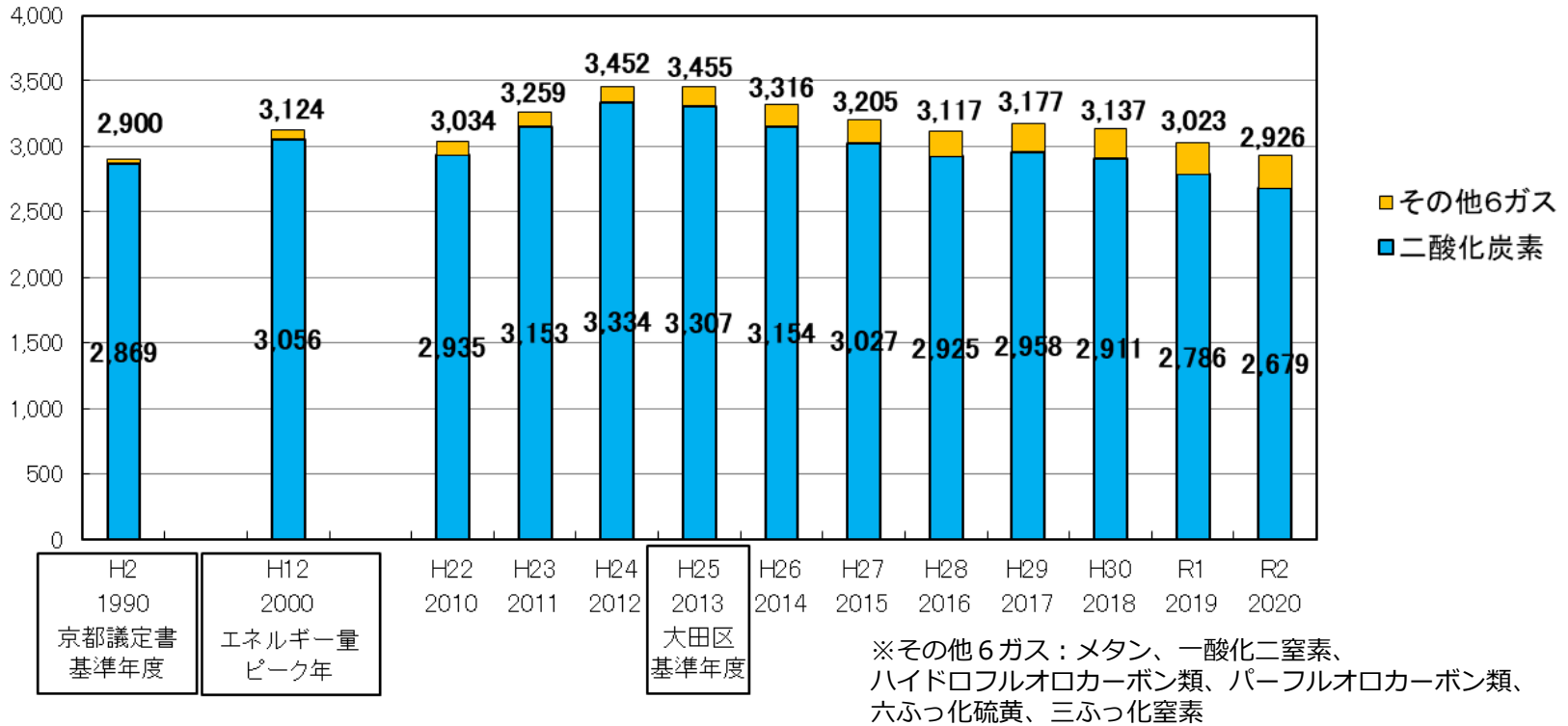


**2020年度 29,669[TJ] (テラジュール)**

- ・ 2013年度 (基準年度) 比 - 10.6%
- ・ 2019年度 (前年度) 比 - 2.3%

# 3 大田区の温室効果ガス排出量

(kt-CO<sub>2</sub>eq)



**2020年度 2,926[kt(キロトン)-CO<sub>2</sub>eq<sup>※1</sup>]**

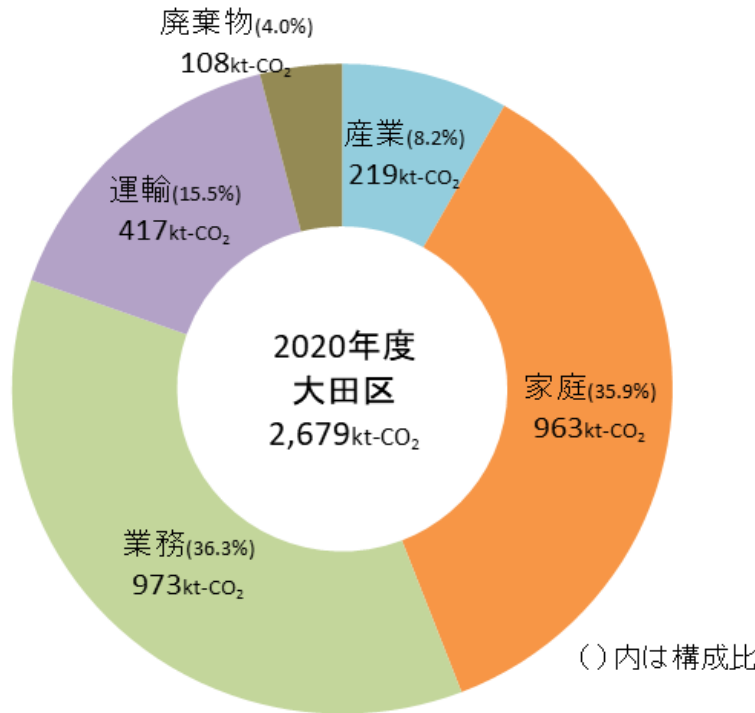
**→うち二酸化炭素 2,679[kt(キロトン)-CO<sub>2</sub>]★全体の9割超**

- ・ 2013年度（基準年度）比 - 15.3%
- ・ 2019年度（前年度）比 - 3.2%

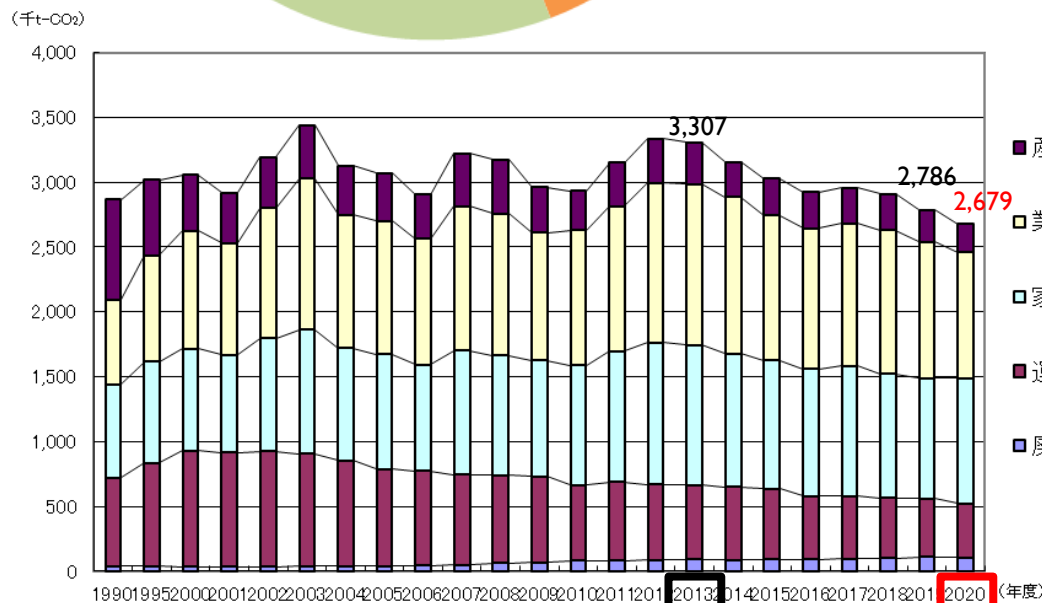
（大田区削減目標： 2030年度までに2013年度比で -50%）

※1 CO<sub>2</sub>eq：二酸化炭素相当量に換算した値を表す単位

# 4 部門別二酸化炭素排出量とその推移



部門	基準年度比	前年度比
産業	-31.9%	-11.2%
家庭	-10.9%	3.9%
業務	-21.5%	-7.5%
運輸	-27.3%	-7.4%
廃棄物	17.0%	-2.6%
計	-19.0%	-3.8%



- 産業部門：事務所ビル、大型小売店、ホテルなど
- 業務部門：農林水産業、建設業、製造業
- 家庭部門：家庭
- 運輸部門：自動車、鉄道(※航空機、船舶は除く)
- 廃棄物部門：一般廃棄物

## 5 脱炭素社会の実現に向けて

～報告まとめ～

### ◆温室効果ガス総量

→2013年度（基準年度）より徐々に削減傾向。

### ◆家庭部門のみ排出量が前年度より増加

→新型コロナ巣ごもり需要によるエネルギー消費増加か。

### ◆廃棄物部門は前年度より微減も、例年増加傾向

→廃プラスチック処理量の増加と考えられる。

～脱炭素社会の実現に向けて～

- 令和4年度策定した『大田区脱炭素戦略』では、**削減目標を2030年度までに-46%から-50%(2013年度比)に見直した**
- ハード面：建築物の省エネ化、再生可能エネルギーの最大限導入etc…  
ソフト面：環境にやさしい電気の採用、省エネの徹底 etc…  
→目標達成のためには両面からの取組が必要
- 構成比の大きい業務部門・家庭部門のエネルギー消費量の削減が温室効果ガスの大きな削減につながる